

## 平成 28 年度 第 1 回長野市総合計画審議会 会議録

日 時：平成 28 年 7 月 13 日（月） 午前 10 時から

場 所：庁議室（第一庁舎 5 階）

出席者：委 員/ 三浦会長、有澤委員、上野委員、金井委員、滝沢委員、塚原委員、堀江委員、本間委員、増山委員、柳沢委員、山浦委員、山口委員  
長野市/ 小川総務部長、増田企画政策部長、平野財政部長、竹内市民生活部長、田中保健福祉部長、上杉こども未来部長、井上環境部長、久保田商工観光部長、倉石文化スポーツ振興部長、西島農林部長、上平建設部長、轟都市整備部長、島田駅周辺整備部長、松本教育次長（行政）、熊谷教育次長（教育）、戸谷上下水道局長、瀧澤消防局長、西澤危機管理防災監  
事務局/（企画課） 倉島課長、花立主幹、小川係長、轟係長、佐久間係長、竹内主査、宮坂主査、奥田主査、白澤主事  
（人口増推進課） 藤橋課長、川上補佐、関谷係長

### 1 開会

（事務局）

定刻になりましたので、これから長野市総合計画審議会を開会いたします。

進行を務めます企画課の花立と申します。よろしく願いいたします。

本日の資料は、事前にお送りいたしました次第と基本構想（案）に関する別紙資料、資料集、総合計画等調査研究特別委員会提言書に関する別冊資料でございます。ご確認をお願いいたします。

本日、園原副会長、池田委員、碓井委員、川北委員、白石委員、寺内委員、長峯委員、藤森委員からはご欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告いたします。それでは、三浦会長よろしく願いいたします。

### 2 会長あいさつ

（三浦会長）

皆さんこんにちは。私自身はこの総合計画審議会は久しぶりですが、皆さまにおかれましては、本日の資料でも出てきます部会で基本計画のたたき台の策定にご尽力いただいたと伺っており、感謝申し上げます。本日は、議題が多くありますがスムーズな進行にご協力いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。それでは審議に移りますが、議長につきましては三浦会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

### 3 議事

(三浦会長)

それでは、第五次総合計画基本構想（案）について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

企画課長の倉島でございます。よろしくお願いいたします。別紙資料と資料集がございますので、そちらをご覧いただきたいと思っております。

#### — 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

ありがとうございました。今のご説明の中で環境分野と産業経済分野で大きく修正があったということですので、補足説明をお願いしたいと思います。金井委員、お願いします。

(金井委員)

環境分野で見直しをしたところ、施策の大綱につきまして、変更がございましたので、ご説明いたします。

従来は自然環境に関する政策として、「自然環境の保全」と「低炭素社会の実現」、生活環境に関する政策として、「良好な生活環境の保全」と「循環型社会の実現」を盛り込んでおりました。しかし、環境分野については、自然環境と生活環境はお互いに影響し合うものであって、このような切り分け方には違和感があるというご意見もあり、作業部会で検討しました。その結果、社会を変えていくという「攻め」の視点からと、私たちの暮らしにとって大切なものを守っていこうという「守り」の視点、というように切り口を変えまして、その中でも「長野市らしさ」を前面に出し、長野から情報発信をしていくための施策にしたいということで、まず攻めの視点から「低炭素社会の実現」と「循環型社会の実現」を盛り込んだ、「環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成」を一つの政策としました。そして「守り」の視点からは、「自然環境の保全」と「生活環境を保全」を盛り込んだ「自然と調和した心地よい暮らしづくりを推進すること」を二つの政策としたものでございます。

私からの説明は以上です。

(三浦会長)

ありがとうございました。続きまして、産業経済分野の滝沢委員お願いいたします。

(滝沢委員)

産業・経済分野では、分野内の「連携」の必要性について多くの時間を割いて議論してまいりました。その結果、「目指す方向」に「産業間や事業者間の連携を強化」する旨の記述を追加したいということになりましたので、提案させていただきたいと思えます。

「進めるべき政策」については、4本で変更はありませんが、観光、農林業、商工業及び就労の各政策の頭に、政策の姿に対応する修飾表現、「魅力を活かした」「活力ある」「特色を活かした」「安定した」を追加したいと考えております。併せて、総合計画と平行して個別計画の策定作業が行われており、これらの動きに対応するため、各政策の構成も変更したいと考えております。

まず、1の観光分野は、時代の趨勢を反映して「インバウンド」に関する取組を二つ目の施策として掲げたいと考えています。

次に、2の農林業分野は、農業と林業それぞれ一つずつの施策構成を考えておりましたが、農業に関して、現状を維持していく観点と強みを一層伸ばしていく観点から、「多様な担い手づくりと農地の有効利用」と「地域の特性を活かした生産振興と販売力強化」の二つの施策としたいと考えております。

3の商工業分野では、既存の商工業の足腰を強化していき、その中から光るもの・特色あるものを伸ばしていき、更に新たな産業創出につなげていくという、三つの段階を施策に反映していきたいと考えています。

最後の4の就労分野はこれまで議論いただいている大綱の構成と大きな変更はございません。

大まかには、観光及び商工業分野の政策に関しては、施策の表現を変更し、農林業については、農業に関する施策を増やして対応していきたいと考えております。

産業・経済分野の施策の大綱に関し、修正を希望する内容の説明は以上です。

(三浦会長)

ありがとうございました。

それでは、基本構想につきましてはこれまでご意見をいただきまして、それを踏まえた修正案を出していただいたのですが、限られた審議会の中で進めていくために、ここで基本構想を皆さまにご了承いただいて次の段階に入っていきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。次の基本計画を議論していく中で、また若干の見直し等をする可能性があります、基本構想についてはここで確定させて次に進みたいと思います。

それでは次の議題に入ります。第五次総合計画前期基本計画（たたき台）についてでございます。各作業部会で議論いただいたものをまとめてありますが、まずは事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）

それでは、次第の「（２）第五次総合計画 前期基本計画（たたき台）について」の「①分野別計画」と「②指標」につきまして、ご説明いたします。

— 資料に基づき説明 —

説明は以上です。第五次総合計画の施策の進捗管理をしていくため、モニター制度、あるいは実践状況を質問するアンケート調査など、他の自治体では見られないようなやり方も実践していきたいと考えておりますので、ご審議をお願いいたします。

（三浦会長）

ありがとうございました。大きくは、総合計画のたたき台と指標についてご説明いただきましたが、まずはたたき台について何かございましたらお願いいたします。

（本間委員）

45 ページの分野２、政策５の人権についてです。このままでもいいと思いますが、施策２の中で「性別による不利益を受けることなく、仕事と生活を自ら希望するバランスで両立できるようにするための環境整備」と、男女共同参画に関する記載があります。おそらくこれは性差別をなくす、というジェンダーフリーの話をしているのだと思いますが、最近性的マイノリティに対する差別をなくそうという動きもございます。企業でも取り組んでいるところもございます。ですから、そういったことも含めた表現があってもいいのではないかと思います。

（三浦会長）

ありがとうございます。ご意見として伺って、部会の中でまたご審議いただければと思います。

（増山委員）

60 ページの分野５の現況と課題の４行目から、「文化芸術活動をしたいと思わない市民も少なくないため」とありますが、押し付けがましいような印象を受けるので、「多

くの市民が文化芸術活動をしたいと思わない」というような表現がいいのではないかと  
思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。私からですが、64ページの「市内の外国人住民数は3,000  
人台を推移しており」というのは、望ましい数値なのか、もっと増やした方がいいのか、  
他の地域と比べてどうなのか、長野の特徴としてはどうなのかご説明いただきたいので  
すが。

(事務局)

この数値が長野市としてどうなのか、ということはすぐにお答えできないのですが、  
3,000人に対して理解を深めていきたいということがここで伝えたいことです。しかし、  
数値的に3,000人という数値がどうなのか、この表現に関しては、もう少し検討してい  
きたいと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。

この計画は成果までしっかりチェックしようということで、指標を政策の中に盛り込  
むということが特徴だということですが、指標も客観的な統計指標と市民の実感を取り  
入れたものになっております。それでは指標に関してのご意見等ございましたらお願い  
いたします。

(柳沢委員)

37ページの統計指標に「介護や生活支援」や、「要介護」とありますが、生きがいの  
関係が見えてこないの、生きがいを持って社会復帰できるような活動を加えること  
はできないでしょうか。高齢者が生きがいを持って社会活動を増やしていくための、モ  
チベーションが上がるような指標を加えていただいた方がいいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。ご指摘のとおり、私どもも高齢者の活動に関しては何かない  
か検討しました。例えば65歳以上の高齢者の方々がボランティア活動をしている割合  
や、就労者数などです。しかしボランティア活動については数字が取れず、就労者につ  
いては国勢調査では取れましたが、毎年の数字がないということでした。今回の分野2  
の統計指標の部分では、どうしても高齢者の活動の部分を出したいということがあ  
りましたので、もう一度改めて作業部会で考えさせていただきたいと思います。

(金井委員)

施策2のところ、子どもや子育て、高齢者というようにそれぞれ独立して書かれています、それぞれが関係し合って支援できる部分もあるし、老人と乳幼児を一緒にしたスキームの作り方もあるのではないかと考えております。それを施策の中でうまくミックスして、今までの枠にとらわれない方向で考えていただければと思います。具体策が出なくて申し訳ないのですが、そのような発想もあるのではないかと考えました。

(三浦会長)

ありがとうございます。今のご意見は次の議題の「分野横断的取組を要する計画推進重点テーマ」とも関連するのではないかと考えますが、事務局としてはいかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。今のお話しの、世代間の交流や連携等は私どもも大切だと思っております。ただ、取組の中にどこまで書けるのか、作業部会で検討させていただくことと、今後、実際に事業をやっていく時に世代間の交流等ができることもあるかと思っておりますので、今後検討していきたいと思っております。

(山口委員)

71 ページの産業・経済分野で、主な取組に「中山間地域の生産振興」ということがありますが、交流人口を増やしていかなければならない中で、移住・定住等は長野市でも取り組んでいるとは思いますが、移住等の具体的なことをアンケート指標に取り入れた方がいいと思うがいかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。移住・定住のことにつきましては、この後、「分野横断的取組を要する計画推進重点テーマ」で取り上げていきたいと思っておりますので、次の議題でご説明したいと思います。

(柳沢委員)

51 ページの防災・安全分野の統計指標について、せっかく道路課や河川課が関わっているのであれば、例えば災害危険区域での河川の改修や橋の改修、地震や豪雨による災害に対する対応ということもされているので、それも指標に入れていった方がいいのではないかと思います。それから、防災上危険性が懸念されるような地域に居住する人の割合が、どのくらいなのかということも検討する必要があるのではないかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。作業部会で検討させていただきます。

(三浦会長)

先ほどのご説明の中でもあったのですが、分野横断的に取り組まなければならないことはたくさんあるかと思いますが、そのことについて事務局の方からご説明お願いいたします。

(事務局)

それでは、「(2) 第五次総合計画 前期基本計画 (たたき台) について」の「③分野横断的取組を要する計画推進重点テーマ」についてご説明いたします。

— 資料に基づき説明 —

説明は以上です。ご審議をよろしくお願いいたします。

(三浦会長)

ありがとうございました。「分野横断的取組を要する計画推進重点テーマ」について、考え方をご説明いただきましたが何かご意見等ございますか。

(柳沢委員)

このプロジェクトは具体的にどのように進めていくのですか。各プロジェクトが挙げられていてその施策が記載されていますが、実際にどのように進めていくのかイメージができないので詳しくご説明いただきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。この重点テーマ3つをどんな形で進めていくのか、長野市の施策は全てここに連携してくることなので、推進体制の評価をして指標についてチェック、見直しをして、予算にどうつなげていくのかという推進体制について検討を進めているところです。いずれにしても重点テーマ3つの大きな柱の中のプロジェクトなので、55の施策の中から進める施策が毎年変わってくることもあるし、ずっと取り組んでいかなければならない施策もあるし、それは毎年評価をしながら予算にメリハリをつけて取り組んでいきたいと思っています。

(柳沢委員)

そういうことであれば、市の中の組織が中心になって進めていくという考え方でよろ

しいでしょうか。施策のところ行政分野が入っていませんが、行政分野は基盤になっているところなので、市の中の組織が中心になって進めていくという考え方であれば行政経営分野があった方がいいのではないかと思います。

(事務局)

進捗を測る指標についてはこちらの審議会にもお示しして、ご意見をいただきたいと思っております。

(金井委員)

90 ページの「横断的取組」の図ですが、部分的に矢印が横断していなかったりしますが、何か意図があるのでしょうか。

(事務局)

特に意図があるのではなく、全ての分野にまたがっているものもあれば、いくつかの分野につながっているものもあるというイメージ図でございます。図の見直しも検討したいと思います。

(堀江委員)

作業部会で、分野横断的な意見も出てきているが、それをこのプロジェクトの中で展開していくということですが、資料に出ている施策にプラスすることはできませんでしょうか。

(事務局)

今回の重点テーマは3つ挙げていますが、今回の審議会でご議論いただいて、もう一つ柱が必要ではないか、ということもあろうかと思いますので、そういったことも含めてご意見いただければいいかと思います。

(堀江委員)

それでは、教育・文化分野で「国際交流・多文化共生の推進」のところで、観光との関係もあると思いますが、長野市の方からタイミング的には難しいと言われていますが、5年の間に東京オリンピックがあります。長野オリンピックという開催都市として、オリンピックでの経験が全く出ていない。例えば教育分野ですと「一校一國運動」は、長野オリンピックの時に世界に発信した事業だと思いますが、東京オリンピックに対しても長野から何かを発信ができるような施策を入れたほうがいいと思います。

(事務局)



ありがとうございます。作業部会でもお話をいただいております。重点テーマにどんな形で入れられるかということを考えていきたいと思っておりますが、重点テーマとして掲げるというよりも、それぞれのプロジェクトの構成要素の中に入れられないか、検討したいと思っております。

(上野委員)

各作業部会の中でも色々なカテゴリーがあって、産業・経済分野の場合は、「観光と農業」といったような細かい部分での連携も議論されています。今、重点テーマが3つありますが、ここにどうやって細かい部分の連携を入れていくか、ということが不透明だと思えました。もっと細かい連携を求めているし、重要なのかと思っております。

(事務局)

ありがとうございます。特に産業・経済分野で連携の話をいただいております。その中でも、細かい連携の部分はどうしても事業の単位になってしまうということで、総合計画そのものには書きにくいというお答えをさせていただいており、了承していただいております。

その議論にもありましたが、連携そのものが目的ではなく、成果を出すためにどういう仕組みを作っていくかということが大切だと思っております。この重点テーマというのは、これから推進体制の中で決めていこうと思っておりますが、一つイメージしているのは、同じ方向性を持って連携できる部局が集まって、一つのラウンドテーブルの中で議論をすることで、AとBを繋げることの効果を促していきたいと思っております。それぞれの担当課が、自分の施策だけを考えた時には出てこない発想が出てくるのではないかと思います。大きなラウンドテーブルであると考えていただければと思います。

(上野委員)

各部局や、各分野が対等な形というイメージですか。

(事務局)

施策においてはそれぞれの担当課がはっきりしてきているが、横断的な取組だと、総合計画を作っている私ども企画課が、主導しながら調整をしていきたいと考えております。

(本間委員)

分野横断的取組について、テーマにアプローチする時に各分野に共通するフレーズがあると思っております。私の所属する部会では、交通安全の話がありまして、その中で高齢者の交通事故が最近増えたということで施策を取り入れまして、高齢者の施策については

交通政策課が担当課となっております。しかし、最近高齢者の交通対策には医療関係からのアプローチも非常に有効であるという報告もあります。

このように、様々な分野からあらゆる面で高齢化社会に対して横断的に関わることができると思います。高齢化というのをハッピーシニアという文言にして、各分野が横断的に取り組むというのがあってもいいのではないかと思います。

(三浦会長)

非常に大切なことだと思いますが、そうすると重点テーマがどんどん増えていってしまうと思いますが、事務局としてはいかかでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。そのとおりで、重点テーマが多すぎるとポイントが絞られなくなってしまうので、できれば3つくらいでいきたいと思っております。中身に関しては、いただいたご意見を参考に見直しが必要な場合は、再度検討していきたいと思いません。

(滝沢委員)

非常にきれいにまとまっていると思いますが、実際に企画課がどこまで関わって調整できるのか、どこの課が主導していくのが重要になってくると思います。事業を進めていくには当然予算的な問題も出てくるからです。確実に推進していけるような体制を作ってほしいと思います。

(金井委員)

重点テーマに絞るということですが、私はまちの将来像である「幸せ実感都市『ながの』～“オールながの”で未来を創造しよう～」という目的を実践するには、人口減少をどうやって抑えていくか、ということが一番の課題だと思います。

長野市の人口がどんどん減っていったら、子どもも若者も高齢者も幸せを実感できません。長野市の人口を増やしていけるような魅力をどうやって発信できるかによって、長野市の人口を維持するかということを考えていきたいと思いません。

重点テーマの2も3も1の「人口増加に向けたまちづくり」のための施策になっているわけです。これはこれできちっと押さえた上で、各分野がやっていることをそれぞれ実行していけばいいのかなと思います。

私の環境分野で押さえようとしているのが、環境に関心を持って、環境問題に取り組んでいる人たちが、どれだけ参加してくれるだろうかということです。長野市の施策に参加する市民、企業がどれだけ参加してくれるかという指標をアンケートに盛り込んでいくのもいいかと考えています。

(三浦会長)

ありがとうございました。まだご意見あるかと思いますが、一度今日のご意見を踏まえて、整理したものを次回の審議会でもた議論したいと思います。これからは具体的に施策をどのように進めていくのかということが課題になってくると思いますので、具体的な推進体制を今後まとめていってほしいと思います。

それでは、次の議題の(3)市議会総合計画等調査研究特別委員会からの提言について、お願いいたします。

(事務局)

それでは、別冊資料「総合計画等調査研究特別委員会提言書」に基づいて、ご説明いたします。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

ありがとうございました。ただ今の特別委員会からの提言の中で何かご意見等ございますか。

(滝沢委員)

1から4の提言はそのとおりだと思いますが、5の期間の問題に関してです。この審議会で、1年以上をかけて様々なことを検討してきました。全ての計画が総合計画を基にして検討されてきているので、これが覆されるとまた全てを検討し直していかなければならなくなるのではないのでしょうか。もし世の中が激変した場合は、4年でも5年でも大差なく、変更すべきものは変更しなければいけないのですから、私としては今のまま進めるべきではないかと思います。

(三浦会長)

どうしても、市長が変わったらその方針に従わなければならないというものの、変更の作業にも時間がかかるし、タイムラグは生じるはずで。そういう意味ではロングスパンで進めたほうがいいのではないかと私も思います。

私も経験がありますが、政権交代によって、決められたものを全てキャンセルされるのはとても大変なことだと実感して、行政というのは、粛々と進めていかなければならないこともあるし、変化に対応していくことは早急に取り組まなければならない

いし、二面性が重要だと思ひます。ですから、「期間は変更せず5年とする」という考えでいきたくと思ひます。

それでは、議事を終了します。ありがとうございます。

## 5 閉会

(事務局)

長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございます。次回の日程ですが、8月26日金曜日午後2時から第一庁舎7階の第一委員会室にて、基本計画等についてご審議いただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

以上をもちまして、審議会を閉会いたします。ありがとうございます。